

**第四次草加市総合振興計画第三期基本計画 振興計画審議会（第2回） 会議録**

日 時	令和4年12月22日（木）19時00分～21時00分
場 所	本庁舎5階 第1・第2会議室
出席者	別紙草加市振興計画審議会委員名簿のとおり（欠席 大谷委員） <b>【事務局（総合政策課）】</b> 津曲部長、平木副部長兼総合政策課長、勝田課長補佐、夢田主幹 日高主任、齋藤主任、三浦主事、高見主事、高木主事
資 料	<b>【資料】</b> 次第 資料4 振興計画審議会での意見等と対応等 資料5 審議会の進め方（修正）について 資料6 各種基礎調査結果について 資料7 第四次草加市総合振興計画基本構想の修正について 資料8 第四次草加市総合振興計画基本構想の修正素案 <b>【参考資料】</b> 第四次草加市総合振興計画第二期基本計画の施策検証結果報告書 第四次草加市総合振興計画基本構想・第二期基本計画 第四次草加市総合振興計画実施計画2022 草加市地域経営指針ver. 3 第2期草加市版総合戦略 草加市実施計画2021・第2期草加市版総合戦略 令和3年度進捗管理結果 令和3年度ダイジェストシート結果報告 令和3年度施策評価市民アンケート報告書 草加市統計データブック2022 草加市振興計画審議会 質疑書

1 開会

（司会）

第2回草加市振興計画審議会を開催させていただきます。  
まず、審議会に先立ちまして、総合政策部長からご挨拶申し上げます。  
**【総合政策部長あいさつ】**

（司会）

それでは審議会に移らせていただきたいと存じます。  
まず本日の会議でございますが、大谷委員から事前に欠席の連絡をいただいておりますので、出席委員14名、欠席委員1名となっております。従いまして委員の過半数のご出席がございましたので、草加市振興計画審議会条例第6条第2項に基づきまして会議が成立していることをご報告させていただきます。  
次に配布資料の確認をさせていただきます。

**【資料確認】**

2 会議の公開について

**【会議を公開とする】**

### 3 傍聴人について

【傍聴人なし】

### 4 会議録の署名委員について

【署名委員：三井委員、豊田委員】

### 5 説明【質疑応答】

#### 第1回審議会での意見等と対応等について

(資料4に基づき事務局より説明)

(会長)

前回の第1回の会議で皆様からご発言があった点について補足、列記してあるということになりますが、改めてこちらをお読みになって、特にご自身の発言に関わることで何かご意見があれば、挙手をお願いします。

事務局はこれに関して補足はよろしいでしょうか。

(事務局)

事務局で回答した内容をそのまま記載しているところがございます。回答に漏れ等がない場合は、このままでよろしいかと思ます。

(会長)

それでは特に委員の皆様からはこの質問に関してはないということですので、こちらでご対応いただいたということにさせていただきます。

それでは議事に入ってまいりたいと思います。(1) 振興計画審議会の進め方について、事務局から説明をお願いします。

#### (1) 振興計画審議会の進め方について

(資料5に基づき事務局より説明)

(会長)

まず、前回の資料では第3回に記述されていた基本構想の修正案、これが第2回に持ち上がってきたということになりますので、本日は第三期基本計画については議論しない、その前段としてまず基本構想の修正、この部分について皆さんからご意見をいただく。併せて各種基礎調査。調査がたくさんありますので、そういった調査についての皆さんのご意見をいただくということで、第2回の会議の内容とさせていただきます。

これについて皆さん、ご異議あるいは質問等あればお願いいたします。

(質問等なし)

(会長)

それでは今後この日程、内容に沿って会議を進めるということにさせていただきます。

ここまで淡々と進んでいますけれども、ここからボリュームがあります。本日の議論の中心になると思いますが、まず1つ目になります。(2) 各種基礎調査結果について、これは非常にボリュームがありますのである程度区切って進めていきたいと思ます。調査結果は

様々なデータがあるのですけれども、まず「1 草加市の状況について」と「2 社会経済動向・国県等の動向について」、事務局から説明をお願いします。

## (2) 各種基礎調査結果について

(資料6「1 草加市の状況について」と「2 社会経済動向・国・県等の動向について」事務局から説明)

(会長)

一旦ここで切らせていただきます。かなりのボリュームですけれども、冒頭3ページからスタートしていきますが、人口動態です。長期的なトレンドを見ると人口は減っていきますけれども、あと10年くらいは人口が増え続けるという試算になっています。ただ懸念点としては6ページの合計特殊出生率が、全国の平均、埼玉県の平均を下回って1.16（令和2年）と、非常に低い水準にあるということ。それから左側のグラフで婚姻数は令和2年まで下がっているのですが、令和3年は上がっていると見ていいでしょうか。

(事務局)

令和3年は上がっているという状況です。

(会長)

これは何か理由があるのですか、令和2年まで下がっていて令和3年はかなり急に婚姻数が増えていますので。これはコロナで結婚を控えていたカップルということでしょうか。

(事務局)

数字としては令和元年の約2倍になっています。

(会長)

これはかなり大きな動きだと思うのですけれども。

(事務局)

そうですね。コロナにおいて結婚を控えていたかはわかりません。

(会長)

理由は特定できないということですね。

(事務局)

数字としては上がってはいます。

(会長)

ほかにも色々データがあり、例えば人口動態で見ると、足立区からかなり草加市に流入をしてきて草加市から出る人は越谷に、という流れですね。逆だと思ったら違うのですね。都内からたくさんの人口が流れてきている、こういうこともわかりますし。

いかがでしょうか、もし皆さんご質問・ご意見がありましたらお願いします。

(浅古委員)

4 ページですけど、右下の「人口構成では、65歳以上の割合が引き続き増加し、」の続きは「64歳以上の割合の減少」ではなく「64歳以下の割合の減少」ではないですか。

(会長)

そうですね。これは「64歳以下の割合の減少」ということでいいですか。

(事務局)

こちらについては「64歳以下の割合の減少」です。

(浅古委員)

もう1つあります。これはわからない点なのですが、5ページのグラフの右側の四角に囲ってあるところ(凡例)で、その他とありますけれども、その他というのは何なのでしょう。か。

(会長)

これは世帯の分類のところですね。その他、よくあるのは3世代。これは一人親と子、夫婦と子、単身65歳未満など。

(事務局)

こちらのその他は3世代構成であるとか、実際分類しきれない、ほか、その他ということです。

(会長)

3世代等も入るのですよね。あとはこの中の分類に入らないもの、ということですね。

(浅古委員)

具体的な例があまり考えられない。これは草加市についてですね。

(会長)

そうです。具体的にというとなかなか難しいかと。それ以外ということになるので、該当しないものということですね。よろしいですか。ほか、ご質問いかがでしょうか。

(延原委員)

もしわかれば教えていただきたいのですが、4ページの年齢別の人口構成比なのですが、全国と比べると20代が多いということがわかる。30代が全国と比べると落ち込んでいる。割合ですからどこかが多くてどこかが少ないということはもちろんあるのですが、30代のところで落ち込むというのは、何か理由があるのでしょうか。

(会長)

これは学生も入っていますよね、当然大学生も。

(事務局)

入っています、全人口なので。

(会長)

ですからおそらく20代前半は大学生、大学があるというところが大きいのかなと。

(事務局)

おそらくですけども、30代で落ち込むのは、先ほどの転出にもございましたが、例えば小さいお子さんと一緒に共同住宅に住まわれていた方が家を購入して転出されるとか、そういうことがあるのではないかと。全員に聞いているわけではないので理由はわからないんですけども、お子様の状況ですとか、この年齢あたりで居住地を改めて見直すタイミングなのではないかと我々としては考えてございます。

(延原委員)

ありがとうございます。だとするとちょっと残念な気もするなど。

(会長)

子育て世帯になると転出してしまうという。

(延原委員)

そのくらの世代の方に、いてほしいかなという気もするんですけど。

それに関連するんですけど7ページ目の転入・転出のところで世代別の分析はないのですか。こういう世代は入ってくるけどこういう世代は出ていくことが多いとか。

(事務局)

データ自体はございますが、現在のところそこまでの分析の実施はしていません。

(延原委員)

さっきの話と関係があるんですけど、どういう世代が出ていってどういう世代が入ってきてということがわかると今後の施策につながるのかなと思います。

もう1点、11ページの産業別のところで、医療・福祉分野で事業所数は減っているが従業者数が増えているのは、事業所の集約が進んでいることがあるのかなという気がするんですけども、宿泊業・飲食サービス業はコロナだから事業所数が減っているのかなという気もするんですけど、実際は事業所数が増えている。この辺も何か要因がわかれば教えていただければと思います。

(会長)

これは特にコロナの前と後という比較ができると思いますが、会社の数は増えているけど、従業員の数が減っているという、そういう状況ですね、これを見ると。あとは宿泊業・飲食サービス業の状況、これは従業員が減ったというのは、例えばパート労働者などが解雇されたということは理解できるんですけど、コロナ禍にもかかわらずこういった業が増えているという点はわかりにくい。これについて分析はいかがでしょう。

(事務局)

宿泊業・飲食サービス業の中には持ち帰り飲食サービス業も含まれているということから、テイクアウトに対応した飲食店等も見られ、宅配も含めて、草加市の場合は東京で働いてい

る方も多くおり、そういった企業におけるテレワーク等が進む中、自宅で飲食する需要が増えた中でそれに対応した事業所数が増えたのではないかと考えてございます。

(森委員)

今の件なのですが、飲食で、草加商工会議所では圧倒的に飲食業の会員の登録が増えています。従業員数が少ないというのは、一人で新規で開業される、事業を起業される方が圧倒的に増えているので件数が増えているのですが、働いている従業員数は伸び悩んでいるということですね。草加市内では飲食業の開業、起業をされる方が物件を探している状況です。居抜きのお店が発生すると瞬間でなくなります。

(会長)

ちなみに、新しい業界に入ってこられるのですか。

(森委員)

今までサラリーマンだった人が脱サラをして飲食業を始めています。いわゆる起業家ですね。

(会長)

年齢も比較的若いのですか。

(森委員)

お若いです。ですから今申し上げたとおり飲食の店舗は空きがないということです。

(会長)

そう考えるとコロナ禍でそれだけ飲食店が増えているというのは脱サラや、コロナ禍での新たな転職みたいのところ、そのあたりがすごく影響しているということですね。

(延原委員)

ちょっと心配していたのは、最近給付金詐欺みたいな話で、看板だけ出してほとんど営業しないという話もあるので、そういうことではなく実際に動きがあるということがお話でわかるので良いことだと思います。

(会長)

ほかいかがでしょうか、よろしいでしょうか。ある程度皆さん、データとしても頭に入っているのもあると思うのですが、改めてわからないこと等ご質問があれば、よろしいですね。それではまた何かご質問があったらお願いできればと思います。それでは先に進んでいきたいと思います。

(「3 第二期基本計画の検証について」資料に基づき事務局から説明)

(会長)

こちらは各担当所管がABCという評価を付けたものということになります。Cが多いという気もするのですが、先ほど説明があったように、やはりコロナ禍で予定していた事業や取組がなかなか予定通り進まなかったことが影響しているというお話です。詳しい中身について

は今皆さんのお手元にあるこちらの中に細かく書いてあるのですけれども、評価としてABCという形で書かれています。これは第二期基本計画の検証ということになります。つまり前の計画はこうでしたということ。やはりCのところですが、上から見ていくとどうしても実績値みたいなものがコロナで進まなかった。事務局としてはそういう評価でよろしいですね。特にイベント等ができないとやはり進まなかったということでC。Bは施策の予定通りできたもので、Bがほとんど、ということです。

ここまでで何か皆さんご質問は。ここは評価に関わる場所です。例えば理由も気になる場所だと思います。なぜCなのか、Cのところを読むとこういうことでできなかったということが書いてあるということになります。

それではどうでしょう、もし意見が出ないようでしたら先に進んで、また改めて振り返ってこちらについて何かあればいただければと思います。

それでは「4 施策評価市民アンケートについて」、こちらに入ります。

## (2) 各種基礎調査結果について

(「4 施策評価市民アンケートについて」「5 みんなでまちづくり会議スピンオフ企画～これからの「草加」の話をしよう!～」について資料に基づき事務局より説明)

(会長)

4番の25ページに戻っていただきます。重要度が縦、満足度が横としてA～Dグループの4つの象限に分けたものになります。特に重要なのはAですね、非常に重要度は高いのだけれども満足度は低い、つまり行政としてサービスが足りていないというところになります。まちづくり、道路、学校教育に関するところは過去3回の調査でもずっと挙がってきているということですので、重要度が高いのに改善が中々されていない部分というところになります。Bのところは満足度が高いということもありますので、行政としてもそれに応えるだけの施策を取り続けてきたというところになります。こういった非常にわかりやすい、つまり課題点がAにかなり集中している。つまりここを重点的にまずはやっていく必要がある。今回の計画策定でもここはやはり重点的に進めていかなければいけないということです。まちづくりと道路なのですね、まず考えないといけないのは。それから教育というところが一つ挙がっている。

自由意見では中目標の2と4からが非常に多い。安心と安全に関わる場所、それから地域の共生に関わる場所。自由意見ということですから色々な意見があるのですけれども、挙げられています。まずはこのアンケートの分析についてですけれども、何かご意見、ご質問がある方いらっしゃいますか。

(浅古委員)

このアンケートは、3,000人からの回答なのですか。

(会長)

そうですね。回収率は30%台です。ただこれはそこまで少なくはないです。よくある行政のアンケートで、大体3割から4割程度ですので。一応1,000は取れていますから、ある程度信憑性はあると見ていいですね、草加市の人口を考えると。

(浅古委員)

どういう基準で3,000人をピックアップしているのですか。

(会長)

これは無作為抽出ですか。いかがでしょう。

(事務局)

これについては無作為に抽出する方法で選んでいます。

(会長)

無作為、ランダムに選んだということです。今回のケースだと3,000人に対して配布をして、回収できたのは1,183ということで4割弱ということです。

(浅古委員)

ちょっと少ないような気がします。

(会長)

景品を付けたら催促すると、上がるは上がるのですけど。

(浅古委員)

3,000人に対しての1,200ではなく、そもそも3,000人が少ないのでは。

(会長)

それはおそらく統計的には大体2,000とか1,000くらいで皆さんやっていますので、問題ないです。

(浅古委員)

問題があるとかないとかではなくて、もっと増やしたらいいのではないかと思うのです。

(会長)

3,000以上出しても、そこまで数字は変わらないだろうと考えます、これ以上増やしても。おそらく統計的にその辺は出していますよね。数としては足りていると思うのですが。

(事務局)

調査数は足りているという判断の中でやったのですが、確かにもうちょっと増やしたらいいのではないかという意見はありました。ただ増やすとその分コストも上がってしまいますので、その判断の中で3,000の数字でいこうと決まりました。

(延原委員)

トータルで見る分には1,000くらいだとおそらく誤差率は3~4%程度に収まると思うので、そんなに大きな問題ではないかと思うのですが、気になっているのはこういった施策の中で満足度にしても重要度にしても、草加市の中でどの地域に住んでいらっしゃる方が、どういう年代の方かということやはり大分変わってくる場所があると思うのですね。そういう意味では地域別の分析とか世代別の分析をするにはちょっと数が足りない、そういう意味ではちょっと少ない。トータルで見るには十分かなと思います。

(小川委員)

Aの部分で、重要度と満足度のところで、これを見たところで22ページの評価を見たときに、重要で不満に思っているのだけれども、施策としては評価Bの予定通り。施策自体をそもそも見直さなければいけないのではないかなと感じます。そこは市民と行政のギャップだと思います。

(会長)

市民の皆さんの課題意識はかなり強いにもかかわらず、行政としては普通にBと付けていると。このあたりのギャップというところなのですが、これは事務局から何かありますか。回答よろしいですか。おそらくこれは市民アンケートで、行政は毎年KPIを立てて進捗に合わせてやっているんで、大幅な見直しはこういう計画の段階でやっていかないとなかなか難しいと思います。何かもしあれば、よろしいですか。言いづらいですよ、今の発言は行政として。

(事務局)

担当課のそもそもの事業規模、これくらいの予算の中でこういうことをするというものが必ずしも市民の皆様の望まれているものになりきれないことは十分認識しています。例えば新田駅周辺の区画整理の進捗等、中々市民の皆様のご納得いくようなところにはいかない。

(会長)

良好なまちづくりの推進の中にありましたよね、駅前のところは。課題認識としては皆さんかなりお持ちなのですが、予算とマンパワーが足りないということですか。

(事務局)

全ての市民の皆様のご希望通りの規模ができれば、もちろんそれに越したことはないのですが、マンパワーや予算との兼ね合いなどの中で、それらを踏まえた計画を立てており、それに対して、市としては計画通りの進捗ができたという評価をする中で、それが市民の皆様にとっては満足という評価には足りないというご評価をいただく場合があると考えております。

(会長)

逆に言えばこういう会議の場でギャップがわかるということが大事であって、これを突き合わせるということが結構あると思います。ほかいかがでしょうか。

(山田委員)

26ページの内容についていくつか質問があります。まず1番目ですが、このアンケート結果は市内ではどのように回覧し、どのように使われているか教えてください。2番目に市民の重要度の高いところを中心に評価をしたということですが、もし理由があればお聞かせください。逆に重要度が低いところの分析もされていると思うので、それがどのように使われるのかを知りたいのです。それから経年的に2年ごとに調査をしているということなので、おそらく満足度・重要度については経験的に関係が高いだろうというところで把握されていると思います。そこで、重要度・満足度とどれくらい相関があるかとか、どの程度の影響があるのかについて、もし把握されていれば、これは今すぐでなくてもいいのですが、教えていただきたいと思います。

(会長)

まず、庁内でのアンケートに対する評価、あるいは共有みたいなものはされているのかどうか、その点はいかがでしょうか。

(事務局)

1つ目の質問のところ、庁内で共有させていただいておりまして、所属でもアンケート結果を参考に意見等を分析しております。

(会長)

庁内でもこの情報は共有されているということですね。

(浅古委員)

見たことがないので、どこで出しているのですか。

(事務局)

ホームページに出しています。

(会長)

職員間でもこれは共有されているということですね。

(事務局)

そうです。職員間でも共有されていまして、また草加市地域経営委員会がありまして、そこでもこちらでAグループになったものは、施策について今後どのようにしていくか諮っております。

(会長)

特にAのところについては、そういった形で特別に議論されているということですね。

2つ目にいきますけれども、今度は高いところ、つまりA、Bですね。これはそういう形で施策の中に取り込むべく色々ところで議論されている。低いところやそれ以外のところはどのような形で見ているか。つまりAだけに注目しているということではおそらくなくて、それぞれどのような形で考えているのでしょうか。

(山田委員)

重要度の理解が、これは市民アンケートですので、市民がこういうところに高い意識を抱いているという形で分析していると思います。ですが、施策に反映させるときにはそれを庁内にいる職員の皆さんがどのくらい必要と感じているか。それからそれらの関係がどのようになっているのかによっては、重要度が低いところを施策でカバーする取組ですとか、参加や参画に基づくまちづくりでさらに高めていくといったような施策連関がどうしても必要になってくると思われます。そうすると市民の望む重要度の意見のほかに、職員の方が実際に現場をご覧になった際に、こうしたところがこれから施策として重要になってくると透けて見えるところがたくさんあるのではないかと予想をしています。

こうした意味で、庁内回覧をした際にそのような意見交換やメッセージ交換があれば、施策がさらにブラッシュアップされる。つまりそういった評価を行うことで次の計画の重要な

柱が見えてくるのではないかなという予測に基づいた質問です。

(会長)

はい。ということですがけれども、庁内ではいかがでしょうか、そのあたりのご議論について。もっと言うと重要度が高いか低いか、重要度だけ高いところをやればいいということでは当然なくて、職員の中には、自分の担当のものは下方にあるが、かなり重要なことがあるかもしれないということで、このデータとご自身の見識を突き合わせるが必要だと思うのですが、そういったことを職員はされているのか、あるいはしていくべきかどうかだと思うのですがいかがでしょうか。

(事務局)

もちろんおっしゃるとおりで、全ての関連する施策についても対応が必要というところもあります。草加市の現状としては、予算的な兼ね合いもあり、限定して実施させていただいています。今後についてはこういったご意見も踏まえまして、全ての施策についてどこまで対応できるのか、そういったところも含めて検討させていただければと思います。

(事務局)

補足させていただきますと、今回のアンケート結果につきましては、このあと審議会でもご審議いただく個別の施策についての庁内検討にあたり、改めて確認いただいて、分析結果として認識いただいた上で、第三期の施策について現在検討を進めているというところでございます。

(会長)

3つ目は。

(山田委員)

3つ目は些末なところなので今回は大丈夫です。

(会長)

これは計画策定や計画の見直しに重要になってくるので、多分このタイミングで職員の皆さんも改めてどのような計画をしていくか、これを見ているのですね。

(山田委員)

それについては、この机上の報告書が11か月前の今年の1月に出されているので、その期間は、やっているべきではないかという思いでした。

(会長)

ほかいかがでしょうか。

(浅古委員)

例えば回覧で出すとか、広報に載せるという手もあると思うのですが、ホームページだけでは高齢の方は見ないことが多いと思いますので、その辺をやった方がいいのではないのでしょうか。

(会長)

ご提案ですがいかがでしょうか。高齢の方も目にできるような。

(事務局)

確かにホームページだけではというご意見もございますので、ただちょっと広報のところはどこまでできるかという部分はあるのですけれども、可能な限り周知を図れるように庁内で検討していきたいと考えます。

(会長)

おそらくこの図をそのままでは見方も含めて難しいと思うのですが、例えば重要度が高いけれどもプロセスとして中々うまくいっていないものなどを、市民アンケートの結果としていくつかピックアップして広報の中に載せてみるなどが考えられます。

(浅古委員)

簡略化して。

(会長)

そう、簡略化して載せる。これは令和3年度のアンケート結果ですので、本来はアンケートの分析のプロセスで載せたらいいと思うのですが。そういう意見が出たということです。

「5 若者ワークショップ「これからの『草加』の話をしよう!」」は、主に若手職員と大学生で2日に分けてワークショップを行い、33、34ページで濃いグリーンのところは重要度が低い、黄色になると重要度が上がっていくと、そういうスタイルです。例えば34ページの人権は、上がってはいますが重要度は低いと。一方観光とか市内の産業については比較的皆さん、重要度が高いとしています。こういうこともわかるということですね。

それから2日目についてはマンダラートといって真ん中に1つ課題を置き、その周りに何ができるかみんなで貼り付けていき、さらにまたそこから1つを取り上げて、そこにまた何がそれに必要なのか、こういう形でどんどん議論を深めていくやり方です。若い人はこういった方法で意見がいっぱい出てくるということですね。

例えば37ページ、商業施設が少ないという課題に対してカフェをつくる、カフェをつくる時はどんなカフェをつくれればいいのだろうか。市内の食材を使ってみたり、空地を活用してみたり。こうやって意見が出てくる。そのための連携手段として、では地産地消をやってみる、SNSによる広報をやってみたら、という形で意見を出すというものになります。

これは報告ですけど、もし何かあればいかがでしょうか皆さん、若い人の意見をご覧になって。大学生とか若手職員ですので、ちょっと皆さんとは違うところをピックアップされている。特に私が気になったのはSNSがすごく多いですね。情報がどうしても紙媒体で、若い方からすると逆に広報等は見ないのではないかと話していて、情報発信の多様化は一つ課題かもしれません。

あと面白いのは、せんべい以外の地場産業のPRが不足しているという、せんべいしか目立たないという、これも若い人の感覚なのでしょうか。ほかにもたくさんあるのでしょうか、実際大学生、特に他市に住んでいる方もいるわけですね、市内の大学には通っているけれども。その方からするとなかなか地場産業のPRができていないという課題もあつたりするわけです。そうすると、コンテストをやったらどうかとか、イベントの周知とか、こういう意見も出ている。

いかがでしょうか、よろしいですか。それでは報告ですので、意見、こういうところに課

題があるというところを確認できたと思います。

全体を通してここまでで何か言い残したことやご意見があればお願いできればと思います。よろしいでしょうか。皆さんの机に積んである計画も含めて、あえてコンパクトな形で今回調査結果をまとめていただきましたので、またお気づきの点等ありましたら質疑書で質問いただければと思います。時間の都合もございますので先へ進んでまいりたいと思います。

### (3) 第四次草加市総合振興計画基本構想の修正素案について

(会長)

こちらですけれども、前回ですかね、非常に計画期間が長い計画として基本構想というのがございます。その中の一部、これが計画になるわけですが、基本計画のところやはり長期にわたって時代にそぐわない点や齟齬が出てきたということもございます。今回事務局からは、その基本構想の修正素案をお示しいただいているので、それについて皆さんからご意見をいただきたい。それでは事務局から説明をお願いします。

(資料7、8に基づき事務局より説明)

(会長)

前にある第四次草加市総合振興計画、ここにこれまでの基本構想が書いてありますので、文言の修正が主ですが、かなり、これでいうと色が変わっているところは修正をしましたということになります。後半の「草加市のめざす都市像」以降について修正はありませんので、前半の部分の修正になります。やはり文言を拝見すると、これは20年の構想になりますので例えばこれでいうと、SDGsももちろんですし、新型コロナの問題やデジタル化、こういったところはどんどん盛り込んでいかなければいけないということで変わってきています。それから環境問題、こういった表記で様々なオゾン層の破壊とか、マイクロプラスチックによる海洋汚染など、これはこれまで書いていなかったことが組み込まれてきています。「大規模地震」と、地震に特化していた今までの表記から、「頻発化・激甚化する自然災害」という書き方に変わっている。時代に合わせて表記を変えたということになります。

これは事務局の提案ということになりますが、皆さんからご意見をいただきたいと思ます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

原則基本構想はそう変えるものではないので、エッセンスそのものは踏襲していくのですが、部分的に、これは文言ですね、これが変わっていく。表記として何かおかしなところや、もっとこうしたらいいというところがあればご指摘いただければと思いますがいかがでしょうか。

(延原委員)

非常に今の時代の流れを的確に捉えて、必要な修正かなと思って拝見いたしました。5ページのところの色を塗ってある部分なのですが、この部分では、すごく全体的な大きな話をしている中であって、かなり細かく書いてあるのですが、例えばその中で松原団地の跡地はURの土地なので草加市がどうのこうのというところではないのかもしれないのですが、土地利用についてはもう決着もついていて草加市が関与していくところではないということでもよろしいのでしょうか。

(事務局)

URの土地なので、URがどのように活用していくかはほぼ計画として決まっていると伺って

います。ただその計画と連携する中で、獨協大学、UR、東武鉄道と市で、それぞれがまちづくりを進めるのではなく、連携して進んでいこうということで今会議体をつくって協議をしているという状況でございます。

(延原委員)

かなりいいところに広大な土地があるので、是非有効にとは考えています。

(小川委員)

5 ページに東埼玉道路のところがあるのですけれども、この地域だと地下鉄8号線についてもあると思うのですよね。地下鉄8号線を入れるには人口増が必要だと思うのですけれども、八潮とかそういう話が出ていると思うのですけど。人口を増やすには市街化調整区域を市街化するような計画がなければ、当然のことながらできないわけであって、そういうことを盛り込む必要はないのでしょうか。

(事務局)

東埼玉道路の話につきましては、国でも事業化を決定してきたというところで、ある程度決定したものを構想には記載するというところで、東埼玉道路の事業化を書かせていただいております。

(会長)

これは国により、と書いてあるので国の事業なのですね。ここはむしろ表記しなくてもいい、そういうわけではなくて。

(小川委員)

国の事業はどのようなのですか、それによって草加市がやるべきことは特にないような気もしなくもない。自動運転の実験のラインができるという話とか聞いているのですけれども、国交省に行ったときに。そういったところで草加市も何か自動運転に対しての取組をするのかとか、そういったところはどのようなのですか。

(事務局)

東埼玉道路の自動運転とバスの関係で、今さいたま市等、東埼玉道路沿道の自治体で今後国と連携してどうやって進めていくかという協議会ができていますところがございますが、具体的な事業として何をやるかというところまではまだ至っていないという状況でございます。こちらに東埼玉道路を書かせていただいたのは、東埼玉道路が事業化することで今後草加市の、今委員さんがおっしゃったように、調整区域の土地利用とかというところに対して検討する要素としては非常に大きいと考えたからです。

(会長)

そういったことを踏まえてここに表記してあるということです。非常に大きな影響力があると、戦略的に表記することで、そういった部分にもつながるのではないかと。いかがですか。それならばむしろあり得るかなと思います。単に国の事業だからといって書くということではないと、そういうことです。

ほか、いかがですか。

(山田委員)

事実関係の確認のようなところなのですが、今回の計画変更にあたっては、定住型の人口対応とか、定住者向けの対策という土台はあまり大きく変えられないまたは変えないという認識で進めるべきというご判断なのではないでしょうか。つまり流動型の人口とか、流動型のコミュニティ形成とか、流動型の豊かさ形成といったところは、あえてあまり大きくは取り上げないほうが望ましいでしょうか。

(事務局)

基本構想につきましては20年の計画とある中で、これまで定住型というところで将来像を検討してございますので、今回こういう時代の背景の変化があるとはいうものの、そのことについて大きく変更はしていかない方針でございます。

(山田委員)

ではそのように承知して議論したいと思います。

(会長)

ほか、いかがでしょうか。基本構想の変更について、修正について。よろしいでしょうか。それでは特に、ご意見や修正依頼がないということでしたら、修正案ですけれども皆様お認めいただくということよろしいでしょうか。

(事務局)

説明させていただくことがもう1点ございます。

(資料7「第四次草加市総合振興計画基本構想の修正について」5ページ「地域経営指針」について事務局より説明)

(会長)

お手元に地域経営指針がありますので、これをこの中に溶かし込んだということになります。ですからこれは新たに加わったと考えていいわけですね、今まではなかったところ。

(事務局)

いままでは、踏襲するという書き方をしていたものを、この中に溶け込ませたというところですね。

(会長)

豊かさですね、コミュニティブロックのところを挟んで。

ここはいかがでしょう。皆さんの中でご質問があれば。よろしいでしょうか。もしなければここまでいくつか修正点等、加筆されたものも含めてですけれども、特にご意見がなければ、事務局案を新たな基本構想の案として承認するということとなりますが、ご異議はございませんでしょうか。

(特になし)

(会長)

それでは特に異議なしということでしたので、第四次草加市総合振興計画基本構想の修正素案については承認ということにさせていただきます。

用意された議題は以上ですけれども、皆さんから何かございますでしょうか。それではなければ事務局にお返しします。

## 2 その他

(事務局)

それでは会長はじめ委員の皆様、長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。最後に事務連絡をさせていただきます。

1点目でございますが、本日の会議録につきましては、作成次第、署名委員の三井委員、豊田委員に送付させていただきますので、ご確認いただきまして、署名をお願いしたいと思います。

2点目でございます。次回、第3回の開催日を1月26日(木)にさせていただいております。ご都合がつかず、ご出席ができない委員の方におかれましては、お手数ではございますが、あらかじめ事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、会場は本日と同じこちらの会場で、時間も本日と同様に午後7時から開始させていただきますのでよろしくお願いいたします。

事務連絡は以上となりますが、何かご質問等はございますでしょうか。

## 3 閉会

(事務局)

それでは以上をもちまして第2回草加市振興計画審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

以上

署 名 委 員 \_\_\_\_\_

署 名 委 員 \_\_\_\_\_